

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473300182	事業の開始年月日	平成12年3月28日	
		指定年月日	令和2年4月1日	
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会			
事業所名	高齢者グループホームことぶきの里			
所在地	(〒226-0021)			
	横浜市緑区北八朔町1856番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	令和3年9月14日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月4日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・日誌や報告書、作成資料等の軽減に努め、入居者との関わりを増やし、レクリエーションや外出、ケア、様子観察等の時間に費やす様に心掛けている。散歩や外出行事、地域の交流の機会等を増やし、入居者の方々に外の空気を感じていただき、ホーム以外での「顔」を覗ける様に努めている。近所のボランティアの方々や小学生等を招いたり、地域の行事等にも参加する事で、人との繋がりを大切にしている。</p> <p>・見守りや声掛け等による残存能力の維持向上と、「何でも一緒に行く。」を基本に捉え、コミュニケーションや生活等の面で意思の疎通を図り、穏やかな関係を築き、最大限に自立支援に努めている。また、入居者の要望や希望等を多く傾聴する事で実現に繋げているという点で、家族(家庭)により近い雰囲気(入居者の方々の心に寄り添う)をもったサービスの実現に力を入れている。可能な限り、入居者一人一人に合わせた生活を常に心掛け、見守り、声掛け、接する態度等、その都度対応している。</p> <p>・認知症介護の基本である、「口出すな!」「手を出すな!」「目を離すな!」を常に心掛けている。</p> <p>*令和2年2月27日より、「新型コロナウイルス」にて外出、地域交流、外部との接触等が難しくなりました。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和3年10月13日	評価機関 評価決定日	令和3年12月10日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<h4>【事業所の概要】</h4> <p>当事業所は、東急田園都市線の青葉台駅からバスで約10分「第一公園前」で下車し、徒歩で8分の緑豊かな住宅地に立地している。横浜市主導のモデル事業として介護保険の施行に先駆けて平成9年1月に開設した。木造平屋建て1ユニットで、隣接して同一法人のグループホームがある。玄関までのスロープはコンクリート舗装され、事業所内もすべてバリアフリー造りで、車いす対応になっている。リビングは太い木の梁が見える吹き抜けの高い天井が印象的で、明るく開放的である。</p> <h4>【事業所理念・基本方針に基づく自立支援】</h4> <p>「何でも一緒に行く」という事業所理念を職員で共有し、「口出すな!」「手を出すな!」「目を離すな!」という基本方針に沿って、見守りを重視している。利用者のペースに合わせゆったりとした時間を過ごしなが、利用者の意向を把握し、自立支援に努めている。家族的な雰囲気の中、利用者と職員が一緒になって行動できるように、掃除や食事の支度、買い物などの利用者の得意分野を役割分担している。</p> <h4>【きめ細かな利用者支援の実践】</h4> <p>日誌や報告書、資料等の作成において、出来るだけ重複を避け、記号などを使って簡素化し業務の効率化を図り、利用者に関わる十分な時間の確保に努めている。充実した職員研修と常勤職員の業務遂行評価シートの活用による人事考課、非常勤から常勤職員への転換制度の導入、契約更新時の面談など非常勤職員を含めた人材育成・質の向上に注力している。さらに1ユニットという強みを生かして、担当制でなく全職員がすべての利用者に関わりを持って支援し、きめ細かな対応をしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホームことぶきの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務につなげる様になっている。 ・事業所理念を事務所等へ掲示、日々の申し送り、ケアカンファレンス等の機会に、確認し共有を心掛けている。 	<p>開設時に、管理者・職員が利用者家族や横浜市の意向を汲んで、「何でも一緒に行く」という事業所理念を作成した。更に「口出すな！」「手を出すな！」「目を離すな！」を基本方針として、職員は見守りや声掛けを重視して、利用者の得意分野を役割分担して自立支援に努めている。理念や方針は事務所など見えるところに掲示して、引継ぎ時や毎月のケアカンファレンスで確認している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、地域の方々等と、「地域ボランティア」「体操教室」「敬老会」「運動会」「活け花ボランティア」等を実施している。 ・地域の行事、自治会行事等に参加したり、常に挨拶を心掛け、日常的に交流をしている。 <p>*「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。</p>	<p>北八朔上自治会に所属し、毎日の散歩時に、近隣の方と、コロナ禍でも遠目で挨拶を交わしている。地域との交流ができない分、事業者内でひな祭りや誕生日会などの行事を企画し、利用者と一緒に楽しんでいる。職員が近くの農家に野菜や果物を買に行くこともある。コロナ禍で、地域の小中学校での認知症サポーター養成講座など、地域包括支援センターとの協働事業や各種活動は中止しているが、開設以来23年間地域と密接に連携してきた実績は、事業所の大きな特徴となっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、近隣GH、包括支援センター、区役所等との協働事業を行っている。 ・地域の活動等に参加、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の方々が気軽に、聞いていただける様に努めている。地域による認知症講習会等への協力。 <p>*「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、地域の情報もいただいて、活用させていただいております。 ・運営推進会議を定期的に開催し、参加者の方々より意見等をいただき、質の向上に努めている。 <p>*「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。</p>	2ヶ月毎に書面開催し、質問票を同封して、返信してもらっている。送付先は家族・自治会会長・保健活動推進委員・地域包括支援センター・緑区高齢障害支援課である。報告内容は事業所の活動、行事や事故報告などで、地域の情報についても収集し意見交換している。近隣の大規模施設での利用者や職員間でのコミュニケーション不足の問題が事例として上がり、1ユニットの利点を再確認した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、基本的に役所等へ出向き、連絡や相談、報告等をし、日頃から協力関係を築ける様に努めている。 <p>*「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。</p>	緑区高齢障害支援課が窓口で、運営推進会議の議事録などを届けている。生活保護を受けている方がおり、生活支援課とは連携している。全国・県のグループホーム協会、市の高齢者グループホーム連絡会に加入し、行政、他事業所と情報交換している。リモートによる市などの主催している研修に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束や不適切なケア等について、常に意識している。 ・多くの職員を研修会等へ参加し、望ましいケアの実践に向け、日々取り組んでいる。入居者やご家族の望みを考慮し、安全安心を最優先に考え、在宅ケアを基本としている。 <p>*「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。</p>	身体拘束をしない旨を契約書や運営規程に明記している。「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、運営推進会議と同時に身体拘束等適正化検討委員会を開催している。身体拘束についての研修は毎年1回、状況によってはその都度実施している。管理者は職員の否定的な言葉遣いなどについては常に注意を払い、その都度指導している。職員は見守りを重視し、常に広く全体を見渡せる場所に立つなど、立ち位置に注意し、死角を作らないように職員間での分担も工夫して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケアノートや状況報告書を活用し、身体のアザや傷等を記入報告し、見過ごす事がない様に注意を払っている。 ・例年、勉強会や研修会等へ参加し、望ましいケアの実践に向け、日々取り組んでいる。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。	高齢者虐待防止法などに関する研修は、毎月のケアカンファレンスなどを利用して実施している。利用者のあざなどを発見した場合には、どこで、なぜそうなったのか原因を職員全員で確認している。自分が家族であったならばどう思うかを常に考え、小さなことでも迅速に報告するように指導し、家族には、出来るだけ早く説明するようにしている。	高齢者虐待防止に関する方針・指針が明確になっていません。方針・指針を明確にして、職員に徹底することを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者個々の必要性に応じ、学んだ事柄や資料等を手配し、活用出来る様に支援している。 ・例年、勉強会や研修会等へ参加している。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に、不安や疑問点等を、十分に説明し話し合い、安心して入居し続けていただける様に、努めている。 		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、家族会等にアドバイザーの方が参加し、本人や家族と交流し、話しや意見、要望を聞き、運営に反映させている。 ・日々の来里時等に、家族からの用件や要望、意見を聞き必ず管理者へ伝える。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。	書面開催による運営推進会議で家族の意見や要望を把握している。電話などで要望を聞くこともある。利用者の意見や要望は、日常の支援の中で把握するように努めている。コロナ禍で利用者と家族の面会ができない状況であるが、ライン電話などの活用について家族から提案があり、対応している。3ヶ月毎に「里だより」を発行し、家族に送付して、利用者の状況を報告している。毎月請求書と一緒に写真を同封して、利用者の近況を知らせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・業務やチームワーク等へ反映出来る様に心掛けている。 ・管理者や職員間も、日頃の申送りやケアカンファレンス等で意見を交換し、コミュニケーションを常に取れる環境を作っている。 	毎日の引継ぎ時や毎月のケアカンファレンスで職員の意見や要望を聞いている。日頃の業務の中で管理者は常に職員とコミュニケーションをとって、要望を把握するように努めている。コロナ禍でもあり、事業所内でイベントを楽しもうと、ホームパーティーを企画し、職員の提案でホットプレートを利用して、パンケーキ作りや、冷凍餃子を焼くなどして、利用者と職員が一緒に楽しんでいる。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションや向上心を維持継続出来る様に、職場環境や条件の整備に努めている。 ・各職員が、業務へ集中して取り組める様にしている。 	常勤職員の人事考課を年2回の面接により、業務遂行評価シートを活用して実施している。非常勤職員は半年ごとの契約更新時に面談している。管理者は職員の勤務状況を適切に把握し、労働基準法などについても理解し遵守している。健康診断も法令通り実施している。資格取得については、年1万円以内で研修費の補助をしている。ストレスチェックについては法人が専門業者と契約し相談窓口を設けている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、出来るだけ職員全員が研修に参加し、学び得た内容を日々の申送りやケアカンファレンス等で報告をして、知識の共有を図っている。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。 	非常勤職員から常勤職員への転換の基準が周知されている。内部・外部研修が充実しており、非常勤職員も含めて研修に参加している。研修レポートと資料を添付して全職員へ回覧し情報を共有している。研修後にケアカンファレンスで発表する機会がある。新人研修として入職時には認知症に関する研修を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、法人内勉強会等も実施し、サービスの質の向上に取り組んでいる。 ・緑区、横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会、日本認知症グループホーム協会等の活動や研修会等に参加。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に、不安や疑問点等を、十分に説明し話し合い、安心して入居し続けていただける様に、努めている。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に、不安や疑問点等を、十分に説明し話し合い、安心して入居し続けていただける様に、努めている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に、不安や疑問点等を、十分に説明し話し合い、安心して入居し続けていただける様に、努めている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のやる気を大切にし、自立支援に努めている。 ・基本理念として、「何でも一緒にいき。」を心掛け、日常の家事や散歩、生活等を共にし関係を築いている。 		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と家族の絆を大切にし、一緒に本人を支える様に心掛けている。 ・家族と共に、本人のケアへ最大限に取り組んでいる。 		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙、年賀状のやり取りや体操教室等。 ・本人の声を聴き、馴染みの物や場所、活動等を維持出来る様に支援している。 <p>*「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。</p>	以前は友人や知人などの来訪があり、カラオケや、外食などに出掛けていた。コロナ禍で電話での連絡のみとなった。里帰りをする方もいたが、今は家族が受け入れに慎重になっている。電話の取次ぎや手紙の投函などの手伝いをしていく。今までの習慣を大切にして、新聞を購読している方がいる。地域の体操・マーじゃん教室などへの送迎をしたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者同士が支え合える様な支援に努めている。 ・入居者同士の関係を最大限に把握（アセスメント）し、家事やレクリエーション、外出行事等を通して入居者同士の関係を築ける様に努めている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス利用の終了をせざるをえない場合も、最大限に適切に誠意ある対応を心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・観葉植物や花、好みの外食や買い物等。一人一人暮らしの中での楽しみを、見つける様に努めている。 ・入居者の話しをよく聴き、一人一人の希望や要望、意向を把握し、入居者本位を心掛けている。	センター方式シートを活用して、一人ひとりの利用者の生活習慣や要望を把握している。職員は日常の支援の中で、思いや意向の把握に努めている。意向の把握が困難な利用者については表情やしぐさなどから読み取り、更に家族から情報収集している。利用者からは好きなものを食べたいとの要望があり、献立に取り入れたり、テイクアウトなどで出来る限り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居からの新しい発見や情報等が有れば追加し、アセスメントやケアプラン、日頃の対応等へ反映している。・入居時、以前の生活歴や情報等を家族よりいただき、事務所へ掲示し情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の生活の中で注意、把握している。個別ケアノート等で情報を共有し、アセスメントやケアプラン等にも反映し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月ごとにケアプランの見直しを実施している。 ・毎月、ケアカンファレンスを実施。職員全員で意見を出し合いアセスメントを抽出し、本人に合ったケアプラン等を作成、日々の状況に応じて対応している。 	9名の利用者を3グループに分けて、それぞれのグループに対して、リーダー及び3～4名のケアプラン担当職員が付き、全職員が介護計画の作成にかかわっている。きめ細かく前回の介護計画を見直し、今回の介護計画の提案をし、ケアカンファレンスで発表している。見直しは3ヶ月毎に実施している。医師の意見等は月2回の往診時に記入された受診票などから把握したり、医師や看護師に聞き、介護計画に反映させている。利用者や家族の要望は、その都度確認している。利用者の状況は個別ケアノートや日誌、連絡ノートなどに記入しで職員は情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・些細な事でも日誌や個別ケアノート、連絡帳等を活用し、情報の共有を図っている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族の要望に最大限答えられる様、対応している。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、馴染みの教室、麻雀サロン、体操教室、地域の行事、自治会の祭りや行事等に、参加出来る様に支援している。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の要望や希望等を聞き、受診や往診等で細やかな対応をしていただける様に心掛けている。	事業所の協力医を受診している。協力医は内科医と歯科医である。訪問診療は内科医は月2回、歯科医は毎週1回であり、看護師が毎週来訪し、健康管理をしている。皮膚科や眼科は基本的には家族対応であるが、情報共有のため職員が同行している。薬剤師が往診医と一緒に来訪し、薬の確認をし、一包化して届けてくれる。服薬時は職員が2名体制で相互確認している。医師、看護師とは24時間連絡が取れる体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・本人、家族の要望や希望等を聞き、受診や往診、健康管理（医療連携）等で細やかな対応を、していただける様に心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時、医師や病院関係者等と連携し、本人の治療や経過等を良く観察し、退院後の生活を検討、支援している。また、入院時より往診医へ報告、相談し、退院後も安心して暮らせるよう努めている。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・常日頃より本人の意見、ご家族の方々と話しをしている。 ・入居時より、今後起こり得る事柄等を説明し、話し合い必要な関係者等と支援出来る体制を心掛けている。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。	契約時に看取りに関する指針を説明し、同意を得ている。段階に応じて主治医や看護師、家族、管理者で話し合い、「病状変化に伴う確認書」「急変時における対応についての同意書」により方針を確認している。現状看取り介護の加算の実績はないが、看取り介護の生活援助計画を立て、数名を事業所で看取っている。職員は外部研修に参加しているほか、医師や看護師の来訪時に、対応についての説明を必要に応じて受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、定期的に職員等へ救命救急の講習会等へ参加、受講を実施している。 ・定期的に確認し、応急手当の方法を事務所に掲示し、常時観られる環境を取っている。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。	/		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、自治会の消防訓練や研修等を定期的に受けている。地域との協力体制を築いている。 ・定期的に、日勤帯や夜勤帯の防災訓練を行ない、緑区の消防署の方が訓練に立ち会って下さっている。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。	年2回、避難訓練を実施している。夜間を想定し利用者、職員が参加している。消防署や消防団、自治会の方の参加はコロナ禍で中止している。地域の避難訓練には以前は利用者と職員で参加していたが、現在は中止している。利用者や職員の食料や飲料水など3日分を備蓄し、ガスコンロも準備している。山下地区・自治会「防災ささえあいカード」（災害時手助けが必要な家族の名簿）に利用者情報を記入し自治会に提供し、情報を共有している。緊急対応マニュアルが整備され、事業継続計画については、法人が対応している。	/	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛け時、人格の尊重等を最大限に配慮している。その都度、適切な声掛けとなる様に職員同士で気を付けている。 	職員は利用者を年長者として敬い、名前は「さん」付けで呼んでいる。利用者の気持ちに配慮し、言葉遣いには十分注意している。トイレ誘導の際には、周りに気付かれないよう配慮して声掛けをしている。研修は年1回法人により実施しているほか、毎月のケアカンファレンスでもマニュアルの再確認などを行っている。個人情報を含む書類は事務所の鍵の掛かるキャビネットに保管している。パソコンは常勤職員のみが使用することとしている。	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の希望、リーダーシップは入居者と心掛けている。 ・職員が決めるのではなく、選択出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入居者の要望を聴き、希望に添える支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・出来る限り支援している。服選びや誕生日プレゼント、買い物等、なるべく本人と出掛ける様にしている。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事準備や料理の下ごしらえ、味付けや配膳等を共に行っている。 ・出来る限り、自立支援を促し、献立や外食等に反映している。	利用者の意向を把握して献立を作成し、職員が調理している。できる方は野菜の皮むきなどを手伝い、後片付けや皿洗いなども一緒に行っている。外出気分や旅行気分が味わえるようにハンバーガーやフライ、ピザや寿司など買ってきたり、航空会社の機内食をネットで取り寄せている。誕生日会には赤飯を炊いてお祝いし、クリスマスにはケーキを用意し、正月にはおせちを楽しんでいる。体調に応じてきざみ食やとろみ食にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて食事を別盛にしたり、飲物やゼリー、果物等で食事量や水分量が減らない様に工夫している。一人一人の状態にあった支援をしている。 ・食事量、トイレの回数、水分量等、変化する習慣に応じた支援をしている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、清潔保持ができるように支援している。また食後、個々の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを心掛けている。 		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・表情や行動からの排泄の予測、排泄パターンの理解に勤めている。 ・パットやオムツは、最終的に考え、排泄を支援している。 	オムツやパッドは最終的な手段と考え、トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表から排泄パターンを把握している。重度化した方1名のみテープ式オムツを使用している。夜勤勤務者がトイレ誘導の危険度を判断して適宜パッドなどを使用している。退院後や在宅時には、リハビリパンツやパッド使用の方が多いが、入居後は利用者の状態に合わせ、パッドなしや布パンツにして、出来るだけトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や適度の運動等を心掛けている。また、食事は食物繊維、牛乳、ヨーグルトドリンク、コーヒー、プルーン等で予防に取り組んでいる。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 日々、入居者の方々に合わせた対応を心掛けている。基本的に、毎日入浴を行っている。 	<p>全員が毎日午後に入浴している。同性介助の要望は利用者からは挙がっていない。入浴したくない方には、担当職員を替えたり、時間を変更して対応している。入浴前には体温や血圧などバイタルチェックをしている。菖蒲湯やゆず湯を楽しむこともある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の日々の様子を日誌や個別ケアノート、連絡帳、申送り等で職員が把握し、状況に応じて休息や安眠出来る様に支援している。 本人の意思を尊重し、生活のリズムに合わせて対応を心掛けている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 服薬後の症状の変化の確認に努めている。家族や医師と相談し、必要以上の薬の処方 avoided している。 薬の説明書を参考にし、把握している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 例年、家事、レクリエーション、外出、買い物、散歩、体操、趣味、編み物等、本人や家族よりいただいた情報を活かし、一人一人が楽しみながら行える様に支援している。 *「新型コロナウイルス」にて、難しくなった。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩、買い物、日向ぼっこ、外食、外出、個別外出、季節に応じた花見等、その支援が喜ばれる様に心掛けている。 ・入居者一人一人、車椅子の方でもやり方等を工夫し、最大限に取り組んでいる。 	<p>天気の良い日には、毎日散歩をしている。車いすの方も1対1で対応している。体調に応じて外気浴を楽しむ方もいる。ドライブで車窓越しに、近くの公園で花の鑑賞を楽しんでいる。事業所の庭でも花火をしたり、野菜を育て食材として使用したり、チューリップを栽培したりしている。コロナ禍で外出が少なくなった分、事業所内での活動を楽しんでいる。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、取り組んでいる。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望に対応している。 		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに合った対応を心掛けている。 ・五感を刺激し、生活の音を大切にしている。掃除、テレビ、音楽、活け花、季節行事、年間行事、BGM等居心地のいい空間等をかもし出す様にしている。 	<p>天井の高いリビングは明るく、加湿機能付き空気清浄機を新たに購入し、快適な空間になっている。リビングの壁には、行事の写真や利用者の作品が飾られている。扇風機が壁に設置され、換気には十分配慮している。清掃は職員と利用者が一緒になって、皆で毎朝実施している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の気に入った場所で、過ごしていただける様に対応をしている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの物、使い慣れた物や好みの物等、本人の希望を考慮し、居心地の良い空間となる様に工夫している。	居室はエアコンのみ備え付けで、カーテン、ベッド、クローゼットなどは持ち込みとなっている。押入れが上下に区分されて、利用者は収納箱などを置いて活用している。利用者は使い慣れた家具やテレビ、仏壇、たんすなどを持ち込み、家族の写真や作品を飾っている。魚を飼っていた方もいる。清掃や換気、季節の衣類の入れ替えなどは職員と利用者が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人に合わせた対応や支援等を心掛けている。		

目標達成計画

事業所名 高齢者グループホーム
ことぶきの里

作成日 令和3年12月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	高齢者虐待防止の方針や指針は、基本的に有るが、明確になっていない。	高齢者虐待防止に関する方針・指針をもっと明確にする。それに伴い、通常の業務に反映させる様にする。	グループホーム事業として、法人全体の学びを、再度確認する。日々の業務で、職員個々人が再度取り組む。	6～12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。